

1 日本史研究の動向と歴史資料の活用

国文学研究資料館

加藤聖文

k.kato@nijl.ac.jp

2 戦後日本史学の動向

■戦後の日本史学の二つの流れ

①唯物史観に基づく歴史法則の解明

* 経済史 etc.

②歴史資料に基づく歴史事実の解明

* 外交史 etc.

↓

1990年代以降は歴史資料を重視した実証研究が主流

But...研究が細分化

↓

近年は社会史の隆盛・政治外交史の停滞

3 歴史資料の公開と情報共有①

■戦後の混乱期～高度経済成長期

<前近代>

旧華族・地主の没落→歴史資料の散逸

→文部省史料館の設立(1951:現在は国文学研究資料館)

* 近世文書を中心とした歴史資料保存意識の高まり

<近現代>

公文書館の未設置による公文書の活用の限界

→米軍押収文書の調査(National Archives)

→私文書の発掘(国会図書館憲政資料室:1949)

↓

日本史研究では民間文書に依拠した研究が中心

4 歴史資料の公開と情報共有②

■1970～80年代

地方で文書館設立が相次ぐ

…自治体史編纂による地域資料の収集→文書館設置へ

国立公文書館・外交史料館の設立(1971)

…米軍押収文書の返還。公文書を使った研究が進展

But...公開文書の大半が1945年以前

■1990年代以降

海外所在の日本関係資料の調査・収集が盛んになる

…アジア地域での資料所在状況が明らかになる

- ・民主化による台湾・韓国での資料公開の進展
- ・中国の所在状況が判明(一部の図書館で目録化)
- …初期は図書が中心、後に文書。

5 歴史資料の公開と情報共有③

■2000年代以降

- ・Internetの普及による情報共有化の拡大
- …アジア歴史資料センター(2001)<http://www.iacar.go.jp/>
- : 国立公文書館・外交史料館・防衛研究所図書館が所蔵するアジア関係資料のデジタル公開
- …韓国・台湾でも所蔵資料情報の公開が進む
- ↓
- 日本国内+海外の日本関係資料の利用は容易になる。
- But…所在情報の一元的集約はまだ出来ていない
- ・戦後の公文書公開が進む(韓国・台湾・中国も)。
- + Oral Historyが盛んになる。
- ↓
- 政治史・外交史研究は戦後が主流に(若手中心)

6 日本史研究のツール①

■研究動向を知る

- ・『史学雑誌 回顧と展望』(史学会編・発行、毎年6月刊行)
- * 昨年の歴史研究の動向をまとめたもの。
- 昨年発表された歴史関係の著書・論文が掲載されている。
- ・『日本史文献事典』(黒田日出男他編、弘文堂、2003)
- * 明治以降に発表された日本史の重要著作の解説
- ・CiNii <http://ci.nii.ac.jp/>
- * 国立情報学研究所による論文検索システム

7 日本史研究のツール②

■日本史の基本事項を調べる

- ・『国史大辞典』(全15巻、吉川弘文館、1979-97)
- * 日本史を研究する時に参考にする辞典。古代から近現代までを網羅。
- ・『日本史必携』(吉川弘文館、2006)
- * 日本史で必要な基本的な年表・図表などを収録。

- ・『近代史必携』(吉川弘文館、2007)
 - * 上記の近代史版。
- ・『角川日本地名大辞典』(全49巻、角川書店、1978-90)
 - * 都道府県別の地名の歴史・地理を解説。近代以降の市町村合併などで地名の変遷が激しいため、地域史を研究する際の必需品。
- ・『日本歴史地名体系』(全50巻、平凡社、1979-2003)
 - * 上記と同じ地名辞典。
- ・『日本史年表 第四版』(岩波書店、2001)
 - * 日本史年表でもっとも基本的なもの。
- ・『対外関係史総合年表』(吉川弘文館、1999)
 - * 明治初期までの対外関係に関わる事項の年表。国史大辞典の補完。

8 日本史研究のツール③

■歴史資料を調べる・使う

- ・『日本史総覧』(全9巻、新人物往来社、1983-86)
 - * 日本史資料のガイドブック。
- ・『日本史文献解題辞典』(吉川弘文館、2000)
 - * 日本史研究で基本的な文献資料の解説。
- ・『大日本史料』・『大日本古文書』・『大日本古記録』
『大日本近世史料』
 - * 東京大学史料編纂所による近代以前の古文書史料集。
- ・『寧楽遺文』(全3巻)『平安遺文』(全15巻)『鎌倉遺文』(全51巻)
 - * 各時代ごとにまとめられた古文書集。

9 日本史研究のツール④

■近現代史研究のツール

- ・『日本近現代史辞典』(東洋経済新報社、1978)
 - * 近現代史の基本事項についての辞典。
- ・『日本外交史辞典』(山川出版社、1992)
 - * 外交史研究の必需品。
- ・『近代日本総合年表 第四版』(岩波書店、2001)
 - * 近現代の年表ではもっともスタンダード。
- ・『明治・大正家庭史年表』(河出書房新社、2000)
『昭和・平成家庭史年表』(河出書房新社、2001)
 - * 近代以降の社会風俗などを調べるときに便利。
- ・『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』(東京大学出版会、1981)
- ・『日本官僚制総合辞典』(東京大学出版会、2001)
 - * 官僚の履歴・官僚組織の変遷を調べるときの必需品。
- ・『日本陸海軍総合辞典』(東京大学出版会、1991)
 - * 軍人の履歴・軍組織を調べるときの必需品。
- ・『日本近現代人物履歴辞典』(東京大学出版会、2002)

- * 近現代の主要人物の履歴を調べるときに便利。
- ・『近現代日本人物史料情報辞典』(1-4巻,吉川弘文館,2004-11)
 - * 近現代の個人文書の所在情報を網羅した辞典。
- ・『事典 昭和戦前期の日本 制度と実態』(吉川弘文館,1990)
- ・『事典 昭和戦後期の日本 占領と改革』(吉川弘文館,1995)
 - * 近代以降の日本の政治制度についての解説が詳しい。

10 日本史研究のツール⑤

■Internetで調べる

- ・近現代日本政治関係人物文献目録(国立国会図書館)
<http://rnavi.ndl.go.jp/seiji/>
- ・アジア歴史資料センター
<http://www.jacar.go.jp/>
 - * 国立公文書館・外交史料館・防衛研究所図書館が所蔵する戦前期文書
- ・近現代アジアのなかの日本(アジア経済研究所)
http://d-arch.ide.go.jp/asia_archive/
 - * 『旧植民地関係機関刊行物総合目録』を基にしたデータベース